

「健康システム」の構築をめざして



WHO西太平洋地域事務所 健康環境・人口部、部長
岡安 裕正

1999年慶應義塾大学医学部卒業、2005年スタンフォード大学大学院卒業、在沖縄米国海軍病院、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て2008年からWHO勤務。

今の仕事について

現在、世界保健機関（WHO）の西太平洋地域事務所（Western Pacific Regional Office; WPRO）にある健康環境・人口部（Division of Healthy Environments and Populations; DHP）では、西太平洋地域のWHO加盟国に対して、疾病、傷害、環境上の脅威から健康を守るための政策やプログラムの立案・実施を支援しています。これには、高齢化への対応、タバコやアルコール、肥満対策など健康なライフスタイルの促進、安全かつ清潔な水や衛生設備へのアクセスの改善、危険物質への曝露の減少、安全かつ健康な都市化の促進などが含まれます。

最近の研究では、人の健康は医療へのアクセスや質よりも、その人の社会環境（仕事の環境や収入、人間関係など）や生活環境（住宅、環境、治安、食環境など）によって決まることが明らかになっています。例えば、医療や介護へのアクセスが保証されている日本でも、住んでいる地域や社会参加、子供の貧困などによって大きく健康が異なることが知られています。

特に、高齢者が健康な生活を送るためには、適切な生活環境が必要となります。例えば、安全で歩きやすい道路や建物、自宅に近い医療施設、見やすい文字や色使いを備えた公共施設などが挙げられます。また、高齢者にとって快適な生活を送るためには、適切な気温などの環境も

重要です。そのために生活環境の改善は、急速な少子高齢化が進むこの地域においては特に重要な課題の一つであると考えています。

しかしながら、現状では、建築・都市計画、交通、環境保護、教育、社会福祉、食品・外食産業などにおいて健康への影響が十分に考慮されておらず、結果として多くの非感染性疾患が生じています。また、医療制度も疾病の早期発見や治療に忙しく、「上流」であるところの予防や個人の生活状況の改善には手が回っていないのが現状です。この課題に対して、私達の部門は社会制度・生活環境・医療を含めた「健康システム」の構築を目指して、多様なセクターとの協力によってより良い生活環境の実現を目指しています。

WHOでのこれまでの経験

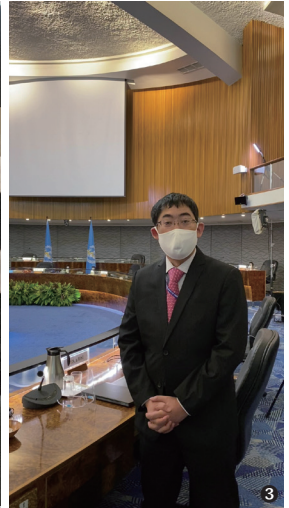
私は医学部を卒業してから、経営コンサルティングのマッキンゼー社で経営コンサルティングの仕事をしていました。その後、アメリカでMBA留学中に、WHOの結核対策の部署でインターンして、それがきっかけで、ジュネーブのWHO本部でポリオ撲滅計画にワクチン開発・技術移転のプロジェクト担当として転職しました。2008年から17年までジュネーブのWHO本部でポリオワクチンのプロジェクトに携わり、ポリオに関する専門家委員会の事務局も担当しました。地球上からポリオを根絶するというミッションは非常に明確で、長年ポリオ撲滅に情熱を注いできた先輩や同僚

から学ぶことは非常に多かったです。本部での仕事は、立案したガイドラインやアドバイスが世界中で引用されて、政策の参考にされるため、責任を伴い、醍醐味がありました。また、ジュネーブにある本部は、ヨーロッパの文化の影響が強く、仕事を効率的に行い、同時に人生を楽しむことが重要である。という考え方は新鮮でした。

より人々の生活に直結する国レベルでの政策の立案と導入支援にも関わってみたいと思い、カンボジアの国オフィスに異動し、メコン諸国（カンボジア、ラオス、タイ、ミャンマー、ベトナム）のマラリア撲滅の担当になりました。メコン諸国では多くのドナーやパートナーが活動しており、活動の調整が大きな課題になっていました。しかし、政府の担当者、WHOの同僚やNGOと一緒にマラリア流行地域に実際に足を運ぶことで、実はメコン諸国の多くではマラリアは、特定のグループ（Forest goers、森林で仕事をする人）を中心に感染している病気で



カンボジアにてマラリアの視察



①カンボジアにてマラリアの視察

②Global Health Leadership Course (GHL)の参加者たちと議論

③西太平洋事務局の会議室にて

あることがわかり、その人達の生活やニーズに合わせた感染対策に集中することで、マラリアの症例数の撲滅につながりました。このように自分たちの仕事が、現場での結果に直結するのが国オフィスの仕事の素晴らしいところだと思います。

その後、2019年に西太平洋地域のWHO地域委員会で合意された新しい地域の健康・保健ビジョン(For the Future)で、優先課題のひとつに高齢化への対応が挙げられたことを受けて、高齢化担当のポジションが新設され、そこに異動になりました。高齢化チームでは、様々な国の専門家や実務家に聞き取り調査や訪問を行いました。そのチーム内で、今後の高齢化対策のアクションプランを発表して、“地域の加盟国とどうやって新しい「健康システム」を作るか。何かから始めるのか。”という議論をしました。2022年3月から、高齢化を含む、その他の生活習慣改善、環境問題などに担当が広がり、現在に至っています。部長としての主な仕事は、大きく分けて2つあります。1つ目は、オフィス全体の方

針や優先課題を各チームに伝えることです。それによって、各チームがそれに基づいたプログラム実施を支援することができます。また、2つ目は、部全体の予算や人事の管理、本部、国オフィスを含めた他部門、主なパートナー(他の国連機関、NGO、研究機関)との連絡・調整です。以前に特定のプログラム(ポリオ、マラリア、高齢化など)の実施を担当していた時とは異なり、現在の仕事では、①各プログラムがオフィスの優先課題と一致しているか②プログラムの間で見落とされている問題はないか③違うアプローチを考えないといけないのではないか、など一歩引いた視点が必要になると感じています。

地域事務局の存在は、国連機関の中でもWHOに特有で、本部と国オフィスの中間の存在です。この地域における共通課題や解決策を考えて、それを国オフィスと共同で各国の政策に反映させる支援をする役割を担っています。アジア太平洋地域は、多様でダイナミックな地域です。その多様性や変化を感じながら各国へのアドバイスをを行うことは、やりが

いのある仕事だと感じています。

将来グローバルヘルスのキャリアを目指す人に

グローバルヘルスは医学だけではなく、政治、経済、文化、社会など多角的な知識を使って社会課題解決に貢献できる素晴らしい選択肢だと思います。例えばWHOには、医学だけではなく、疫学、社会学、コミュニケーションなど、色々な分野の専門家が多くの国から来ていて、課題の解決に向けて日々努力しています。私は民間企業での勤務経験やMBAを持っているスタッフとして、企業で広く使われている問題解決やマーケティング、プロジェクト管理、パートナーシップ、イノベーションの手法を応用し、企業を含めた今までの人脈を活用して、様々な公衆衛生のプログラムの改善に貢献したいと考えています。このように、一つのテーマだけではなく、色々なことに興味があり、国や世界の課題解決に興味がある方にはグローバルヘルスのキャリアをお勧めします。